

矢部川発電事務所

Yabe River Hydroelectric Power Station Administrative Office



福岡県

福岡県企業局矢部川発電事務所

〒834-1203 八女郡黒木町大字北木屋2819-2

TEL 0943-45-1111

FAX 0943-45-1112

<http://www.yabegawahatuden.jp/>

沿革

昭和27年	矢部川総合開発事業全体計画書 策定
昭和28年	矢部川流域に大水害発生 矢部川総合開発計画 再検討
昭和32年	日向神ダム・大淵発電所 着工
昭和34年	大淵発電所 竣工
昭和35年	日向神ダム 竣工
昭和36年	大淵発電所 運転開始 松瀬ダム・木屋発電所 着工
昭和37年	企業局 設置、大淵発電所 土木部より移管 矢部川発電事務所 設置
昭和38年	松瀬ダム・木屋発電所 竣工 木屋発電所 運転開始
昭和44年	大淵発電所 遠方制御装置設置
昭和50年	木屋発電所・大淵発電所 自動制御装置導入
昭和57年	ちくし発電所 概略計画決定
平成2年	ちくし発電所 着工
平成4年	ちくし発電所 竣工・運転開始

山中溪谷(黒木町)

矢部川は福岡県では3番目に長い川です。福岡、大分、熊本の三県にまたがる釈迦岳(1250.0m)、国見山(1018.1m)等の連峰に源を発し、八女市祈禱院にて最大支流の星野川が合流した後、花宗川を分流させ、筑後平野の穀倉地帯を貫流し有明海に注ぐ、幹川流路延長61km、流域面積647km²の河川です。

矢部川の水は流域の約11000haの農地に灌漑用水として供給されています。また、ノリの養殖など有明海の水産資源にも大きな影響を持っています。

中・上流域の一部は県立自然公園に指定されています。中・下流域での穏やかな水の流れは、水遊びの場、柳川の川下り等に利用され、多くの人々に安らぎと潤いを与えています。

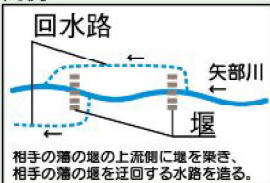
矢部川とともに暮らしてきた先人の知恵

矢部川には「井堰」や「回水路」が数多くあります。これらのほとんどは江戸時代に矢部川の右岸側の有馬藩と左岸側の立花藩が、それぞれの領地内に矢部川の水を引くために、互いに競うように築いたものです。(図中には矢部川本川のみ記載しています。)

唐の瀬堰



凡例



相手の藩の地の上流側に堰を築き、相手の藩の堰を迂回する水路を造る。

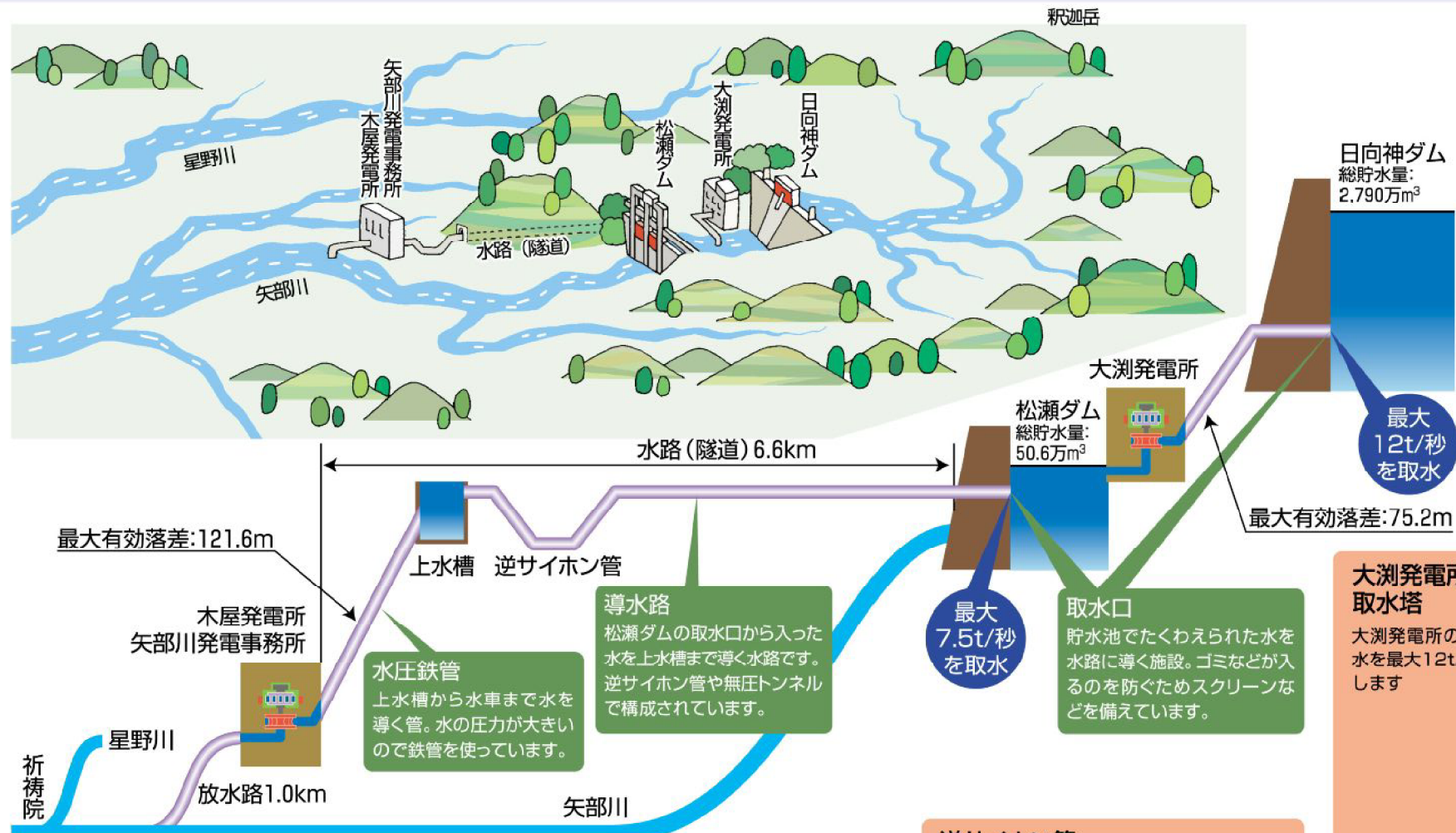
黒木の大藤





発電用水の流れ

大淵発電所で発電するために日向神ダムから取水される水の量は、一秒間に最大12トンで、発電後は松瀬ダムに流れ込みます。木屋発電所で発電するために松瀬ダムから取水する水の量は、一秒間に最大7・5トンで、発電後は放水路から矢部川に還流します。



大淵発電所取水塔

大淵発電所の発電用水を最大12t/秒取水します

松瀬ダム取水口

最大7.5t/秒を取水し木屋発電所の上水槽へ送ります。

逆サイホン管

コーヒーマシンのサイホンと同じ原理で、圧力が低い方へ水が導かれることを利用しています。水路が谷を横断する場所で、横断後の水路の高さを維持するため用いています。

上水槽

松瀬ダムから水路を経て送られてきた発電用水を一度溜める水槽です。

放水路

木屋発電所で発電に使用した水は矢部川へと還流されます。